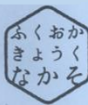


領解

Ryouge



第4号

令和7年2月1日

発行責任者
那珂組門徒推進員連絡協議会
代表 原 京子
事務局 専 宗 寺
福岡市博多区青木 1-13-20
(092) 611-7541

那珂組新組長 就任挨拶
白山義章 住職(浄運寺)



白山組長

私にはお念仏に
関して忘れられ
ない思い出があ
ります。

頃、ベルギーの真宗ご

門徒だったフォンス・マルテンスさんとお話しする機会がありました。しかし、なかなかお互い言いたいことが言えずもどかしい思いをしていました。彼はオランダ語(フラマン語)、私は日本語が母国語、その二人が第二外国語である英語で、しかも仏教に関する会話をしようとしているのですから当然です。お互いに言葉で通じ合うことの難しさを痛感していました。そのとき彼に言われたのです。「It's OK, Yoshi. We have same word. (ヨシ、大丈夫だよ、僕らは同じ言葉を持っているじゃないか)」「Namo Amida butsu (南無阿彌陀仏)」そう言うてにつこり微笑むフォンスさんを見ていると、ほっとすると同時にとても嬉しくなってきました。

私たちは一人一人違う考え方をもち、それぞれの人生を歩んでいます。

そんな私たちが思いもかけない繋がりで結ばれていることを知った時、とても温かい気持ちになりました。

門推さんはそれぞれ違うお寺に所属していますが、縁あって門徒推進員となってお寺の枠を超えた活動でより多くの方々のご縁づくりに力を注いでくださいます。そんな私たちはみな同じ「南無阿彌陀仏」をいただいている仲間なんですね。これからも門推さんの輪が広がり一人でも多くの方が仏縁に遇っていただけるような機会が増えれば良いと思います。合掌

第16期連続研修終了

令和5年10月21日に開講された連研は、11回にわたって開催され、昨年9月14日に西光寺にて修了式が行われました。

その後、受講者、法中、門徒推進員との懇親会があり楽しい時間を過ごしました。



受講者・法中・門徒推進員集合写真



インド 仏跡の旅

大神賢治（釋得実）

報恩講のお参りに御笠組の願應寺様に行きました。そこに貼ってあったのが「インドの仏蹟めぐり」のパンフレットです。「王舎城ラジギールへ」お釈迦様の三大聖地を訪ね、ガンジス河流域を行くというコースでした。

40年前にインドの仏蹟へ行ったことがあり、現在の仏蹟を見たいと思ったことと、脚・腰が動く今のうちに行かないと次に機会は無いと思ったことがツアーに参加した動機です。

出発は約4カ月後の、令和6年2月6日で、10日間の旅です。

ゆつくり準備をすることができました。今回のコースは中川住職の希望で、霊鷲山で読経をすることと、ガンジス河での人々の熱を感じることに主眼でした。

霊鷲山へは夕方に到着するように調整されていましたが、まさに夕陽が沈む時に、「讚仏偈」を称えることが出来ました。忘れることのできない感動の一時でした。



霊鷲山の夕陽に向かって讚仏偈

参道は舗装され、土産店もありました。

40年前に比べるときれいになっています。霊鷲山山頂の広場は当時のままでした。掃除も行き届いています。

ガンジス河へは、ホテルから三輪タクシーのオートリクシャーで行きました。途中の道路は大量の車、オートリクシャー、バイクそして人々の大混雑です。車のクラクションはうるさいし、隣の車やバイクと何度も接触しそうになり、実際に接触もしました。オートリクシャーにはドアがないのでスリル満点です。実害はありませんでした。忘れられない騒々しさです。

ガンジス河の岸には他の国からの観光客も多くて、びっしりのすしずめ状態です。すぐに迷子になりそうです。ヒンズー教徒の聖地であり、信心深い人々が多いと感じました。河岸に火葬場があり燃えていました。テレビで見た光景が広がっていました。

朝昼夜とその時々を感じるものがあります。

今回の旅では、ご成道の聖地ブッダガヤ大塔の参拝・スジャータ村散策・王舎城・世界遺産のタージマハールなども楽しみました。来年は今回訪問できなかった仏蹟などを見に行きたいと思っています。是非一緒に行きましょーうね！！



スジャータ寺院

令和6年度

那珂組門徒推進員連絡協議会 研修会

令和6年6月26日（水）10時～15時

西林寺（博多区吉塚）で開催されました。

高崎副代表の司会で、原京子代表に続き、安武義修住職（西林寺）の挨拶がありました。午後、安武住職より「地域に開かれたお寺づくりと多文化共生」というテーマで、お話を伺いました。

昼食の前に、吉塚商店街を、住職の案内で見学しました。

住職たちにより、吉塚商店街の活性化を実現、また金色に輝く釈迦像を安置した「吉塚御堂」

を建立。御堂は、外国の留学生たちの、「こころのよりどころ」となっています。

「多文化の共生の場」として、また「仏様とのご縁づくりの場」として、「自他一如」の仏教の教えを、「地域の開かれたお寺」として実践されているとの感銘深いお話でした。



金色に輝く

お釈迦様像

安穩山 一心寺御入仏・御遷座法要

一心寺 安部 一枝
(釋 惠徳)

令和六年三月十六日(土) 菜の花満開の青天のもと、雅楽の奏のなか檜の香薫る阿弥陀如来尊像をお迎えいたしました。(江里康慧 仏師御造願)



阿弥陀如来尊像

二つの法要が厳修されることは千年に一度とのことです。厳肅な時の流れのなか並ばれた二体の阿弥陀様のお姿とても静かでお美しく、散華とともに右繞三匝(尊像の周りを三周する最高の礼法)されるご結果に息が止まりました。

「光はここに 光はここから」を心にいただき、門徒一同ありがたいご縁に深く感謝申しあげます。



御遷座道中



総代・世話人・婦人会役員・実行委員

専宗寺 納骨堂落成法要

多聞山 専宗寺『納骨堂落成法要音楽祭』

令和六年五月五日(日)

一見美術館のような納骨堂にて落成法要音楽祭が催されました。

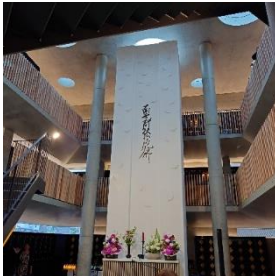
明行寺福山智昭住職・CODAMA 夫婦ユニット「遇々」による音楽法話、雅楽の演奏に加え専宗寺住職の幻想的な蘭陵王(らんりようおう)の舞、この



美術館のような納骨堂

日、御本尊前の吹抜けに差し込む光は淡く温かで皆を包み込むようでした。

この納骨堂は、「子どもがひとりで入れるような納骨堂」をコンセプトに、明るく清潔で居心地が良い堂空間を目指したものです。50年前から始まった再建の協議、先ずは納骨堂、現在は庫裏も建設中です。



ご本尊(南無阿弥陀仏)



佐野住職の蘭陵王の舞

みんなの広場

身施(寺内境内清掃)

令和6年5月8日(水)

金吟山 教徳寺にて身施を行う。

10名参加

清掃の後、高原隆則住職より「元号令和が万葉集から引用されていることや本願寺とのご縁が深いこと等について詳しく」お話を伺った。



高原住職(中央)

令和6年10月9日(水)

文殊山 善教寺にて身施を行う。

10名参加

清掃の後、今泉信生住職より、「聞く地蔵・聞かない地蔵の寓話から、人間の欲深さは際限がないこと、結果そのことが身を滅ぼすことになる。足るを知る事が大切」との話を伺った。



今泉住職(中央)

那珂組二十九ヶ寺お寺巡り

第四回は『光行寺』です。

「法王山 光行寺」

住職 平川 弘道師

所在地 福岡市南区野間一―二六―二六
(〇九二) 五四一―一〇七三



平川住職

当山の開基については、
五島の七里縫殿之介と名のる僧が、五島に於いて光行寺と称する寺を建立した後、福岡の地に移る。

光行寺十七世佛殿記載、第1〜3号の各過去帳（原本は無く、写しと思われる）の序文には、当時の建立を天文年中とし、寺号、木佛を天文14年3月7日本願寺より許される。（筑前国続風土記より）
今を去る四百七十九年前である。

私は、平成18（2006）年の5月、母の実家である光行寺に家族と共に入寺してその年の8月に得度のご縁をいただき僧侶となり帰ってきました。

その2週間後、8月30日に前住職が往生

されました。

34年にわたり光行寺住職、護持発展にご尽力された大切な師、頼るべき住職との別れは深い悲しみと共に先が見えない不安の日々でした。

その日々の中に、総代様、仏教婦人会、ご門徒様の方々から、「ありがとう」「来てくれて良かった」「安心したよ」

温かい言葉に支えられ組内先輩法中の方々からも「大丈夫、大丈夫」親切にご指導いただき、入寺して約20年を迎えます。

最近では、お寺で落語会、ヨガ、体操など行いお寺を開放しております。

これからも開かれたお寺を喜びも悲しみも共に分かち合えるお寺を目指して、ご門徒様と共に一念仏申す日暮らしを送らせていただきたいと思います。



光行寺境内から本堂を仰ぐ



報恩講法要内陣荘厳

令和七年度 行事予定

二月八日（土）	福岡教区全員研修会
二月十一日（火）	総会
三月六日（木）	門信徒のつどい
五月十五日（木）	身施
六月二十六日（木）	全員研修会
八月	福岡教区全員研修会
十月二十四日（金）	身施
令和八年	
一月 九日（金）	十六日（金）
一月二十六日（月）	京都本願寺御正忌報恩講法要
	福岡教区報恩講法要

編集後記

第16期連研には18名が受講され、ほとんどの方が終了証書を手にされました。

これは、法中と門徒推進員が共に2年間をかけて検討した、「受講しやすい連研のカリキュラム」の成果だと思います。

受講者からは、「仏事の作法が解って良かった。」「今まで疑問に思っていたことが理解できた。」「連研に参加して良かった。」「等の声が上がっていました。

2ヶ年に亘り連研を運営された佐野部長、安部法要部会長をはじめ関係者の皆様に、敬意と感謝を申し上げます。

受講者の中から「中央教修」に、3名の方が参加されました。門徒推進員の仲間として、ご一緒にみ教えを広めて参りましょう。